



# 丸小だより

令和3年2月26日(金) No.12

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

## ほめる種をまく

校長 新井 篤志

3月を迎え春の温かさを感じるようになりました。日も伸びてきて天気もよいと明るい気持ちかわいてくるような季節になりました。緊急事態宣言が続いていますが、少しずつ状況は改善傾向にあると思います。引き続き十分に対応を心掛けていきたいと思います。

年度末を迎え、1年間のまとめの時期になりました。今年度は今までに経験したことのないことを子どもたちも多く関わってきました。それでも、子どもたちは一人一人自分のめあてを立てて一生懸命に学習活動に取り組んできました。こうした活動を最後まで続けてほしいと考えます。4月は新しい年度が始まり、子どもたちも新鮮な気持ちで取り組むことでしょう。そのスタートを上手にはじめるためには、やはり今のことをしっかりとやり遂げることが大きな力になると思います。

そのためには、子どもたちの意欲を高めることが必要です。大村はま氏の言葉に「種をまくほうが大切です。」というのがあります。大村氏いわく「子どもはほめることが大切です。でも、いいことがあったらほめようというのではなく、ほめることが出てくるように、ほめる種をまいていくことを考えたいと思います。そうせずに、いいことがあった子、よくできた子だけをほめていくと、まんべんなくほめるというわけにはなかなかいきません。また、少し学年が上になりますと、ほめるに値しないことをほめられたときには、喜ぶよりも、むしろいたわられているような辛い気持ちになるのではないのでしょうか。教師は、ほめる大切さと、ほめる種をまく大切さを並べて、いえ、種をまくことのほうを重く心にとめておきたいものです。」

この言葉は、子どもはほめることが大切であるという言葉の意味をもう一度考えるのによいと思います。まずは、ほめることを考えてしまっている私たちがいるかもしれません。何をほめてあげることが子どもたちにとってうれしい言葉なのかを考えて、実際に子ども自身が行ったことを認めてもらえたと思えるような働きかけを考えていくことが必要ではないかと思います。

この言葉は子どもを育てていく上で、教師はもちろんのこと私たち大人が大切に考えていきたいことではないかと思います。

大村はま「灯し続けることば」より



12月に実施した学校評価アンケートの結果をまとめました。それぞれのアンケートで項目ごとに、経年変化も含めて考察を行いました。ご一読ください。

保護者の皆様には、アンケートへのご協力ありがとうございました。文章表記された貴重なご意見は、今後の学校運営の参考にさせていただきます。